

平成26年度 第3回東部地区幼稚園教員・保育士の合同研修会

「幼保・小の円滑な接続をめざして」

日時：平成26年8月18日（月）
場所：鳥取県立福祉人材研修センター

【ねらい】

小学校教諭の保育園における長期社会体験研修の実践発表及び意見交換を通して、幼児教育と小学校教育の円滑な接続の相互理解を深め、各地域の実情に応じた幼保小連携の推進を図る。

【研修の様子】

1 講義 「生活科ってなあに」 〈講師〉 東部教育局 中村 礼子 指導主事

- 生活科の目標
 - ・自立の基礎を養う（①学習上の自立 ②生活上の自立 ③精神的な自立）
- 育ちを学びにつなぐ「三つの自立」から「学力の三つの要素」へ
- 表現活動で振り返る
 - ・無自覚な気付き → 自覚的な気付きへ
 - ・個別の気付き → 関連づけられた気付きへ
- 体験活動と表現活動の相互作用により気付きの質を高める



2 実践発表

「育ちと学びをつなぐために～小学校へのスムーズな移行をめざした支援のあり方～」

発表者 鳥取市立青谷小学校 中澤美佳 教諭
鳥取市立すくすく保育園 富田澄恵 副園長

- 幼保小連携の課題を受けて取り組んだこと
 - ・連携担当者の決定
 - ・幼保小連携年間計画の作成と見直し → 顔の見える交流を（保小連絡会、保小意見交換会、保育体験、授業・公開保育等）
- 子どもの育ち・学びをどうつなげていくか
 - ・保小特別支援体制の充実
 - ・接続カリキュラムの作成・活用
 - ・子育て・情報発信
 - ・子ども同士の交流の充実



3 意見交換（グループ協議）

【テーマ】子どもの発達や学びの連続性を踏まえた接続をめざして

- 生活科の学習内容を理解する。
- 5歳児の各園における特徴的な活動（交流等）を紹介し合う。
- 相互理解を図るために、今後取り組みたいことを話し合う。
 - ・交流の回数を重ねることで、お互いを理解していきたい。（子どもも職員も）
 - ・特別支援体制についても、共通理解する場をもち、同じスタンスで支援をする。
 - ・幼保小両方のねらいが達成できるように交流の計画を立てる。（互惠性のある交流を）



【参加者の感想】

- ・生活科について理解できた。保育園で行っている保育の内容が小学校での学びにつながっていることや、似ている内容があることが分かった。
- ・地域全体が、保小中と長い目で子どもたちを見守っている様子がよく分かった。連携の大切さを改めて感じた。
- ・支援が必要な子に対しての支援の仕方の工夫、そして、園全体で取り組む体制づくりをしていきたい。
- ・顔の見える交流・連携をしていき、目の前の子どもたちが、安心して1年生になれるようかかわっていききたい。

幼保小の教育・保育内容について、相互理解が深まりました。

【おまけ】